

社会科における表現力の育成～論理的な説明～

『中学校学習指導要領解説　社会編』地理的分野・歴史的分野・公民的分野それぞれの目標に、次の記述があります。

適切に表現する能力と態度を育てる。(下線は筆者)

そして、公民的分野の頁において、表現力について、次のように解説しています。

公民的分野の学習において育成しようとする表現力とは、学習の成果を効果的に発表したり文章にまとめたりする力を意味しているのではない。(中略) どのような資料を収集し、その中から何を基準として資料を選択し、それを用いてどのようなことを考え、どのような根拠で結論を導き出したのかを、具体的、論理的に説明させるなどして、第三者に学習で得た結論とその結論を導き出した過程をより分かりやすく効果的に示す力を意味しているのである。(下線は筆者)

以上のことから、子どもたちに「適切に表現する能力」を育てるためには、指導者は、**どういう説明の仕方が「論理的」なのかを、具体的に指導する必要がある**と考えます。

そこで、今回の授業グレードアップでは、ビジネス等でよく使われる「三角ロジック」の手法を取り入れた説明の仕方について紹介します。

「三角ロジック」とは

三角ロジックとは、簡単に言うと、「事実・データ（根拠）を基に、自分なりの理由付け（解釈）をして、意見を言う」といった論理的な説明の仕方です。

ここでは、授業において、子どもが自分の考えを述べる際に、まず初めに意見（結論）を述べて、次に、その根拠を示しながら理由付けするという流れについて説明します。

三角ロジックについて、子どもたちに指導する際には、次のような身近な例を示すと、分かりやすいでしょう。

① 意見

あのラーメン屋はきっとおいしい。

ラーメン

② 事実・データ（根拠）

開店1時間前なのに、50人以上の行列ができていました。

③ 理由付け（解釈）

長い時間並んでも食べたいということは、それだけおいしいラーメンだと思うから。

その際、おさえるべき指導のポイントは、次の二つです。

- ☆ ②には、①の意見を支える真実性が高い事実やデータを入れる。
- ☆ ③は、②の事実やデータから、なぜ①の意見が言えるのか、説得力のある解釈を伴った理由付けをする。

例えば、実際の社会科の学習場面では、次のような説明になります。

〈中学公民「選挙のしくみと課題」〉

【学習問題】

18歳の若者の投票率を上げるためにどうすればよいか。

※「インターネットで投票できるようにするとよい」と考えた子どもの場合を例に



① 意見

インターネットで投票できるようにするとよい。

② 事実・データ（根拠）

高校3年生の9割以上が、スマートフォンを所持している。

③ 理由付け（解釈）

週末も部活動などのため、投票所に行く時間がなかなかとれない高校生でも、スマートフォンを使って自分の都合のよい時間にインターネットで投票できるので、投票率を上げることにつながるから。

「三角ロジック」の手法に慣れさせるためには、上記の図と同じ型のワークシートを作成して、子どもたちに配付し、①・②・③の枠の中に、自分の意見等を書き込ませてから説明させるのも、効果的な方法の一つです！

